

雑 感

企画理事 加藤 孝雄



日本の特徴について、私は過去にこんな話を何人もの人から聞いたことがあります。すなわち、“日本に来て一番驚いたことは、日本には日本人ばかりたくさんいる。”ということです。これは外国人ばかりでなく、長期海外駐在から久しぶりに帰国した日本人からも聴かされた話です。

これを聴いて本当に吃驚したのはこちらの方でした。日本に日本人がたくさんいるのは極自然なことであると考えていたからです。

しかし、よく考えてみると確かにどの国へ行ってもいろいろな人種の人がたくさんいるのが普通のような気がしてきました。私自身の経験でも、外国の街角で時間を聞かれたり、道順を聞かれたことがあります。どうしてこともあろうに外国人の私に聞くのだろうかと思議に感じたことが一度ならずありました。

あるとき、空港から着いたばかりで、右も左もわからずにダウンタウンを歩いていますと、目の前を歩いてきた人が、“すみませんが、今何時ですか”と聞くではないですか。とっさに時計を見てきたわけですが、しばらく経って、自分が今朝まで居たところは、ここは一時間の時差のあったことに気が付きました。もうその時は後の祭り、申し訳のないことをしてしまったと今でも思っています。

今、日本では国際化、国際化とその重要性が殊の外、叫ばれていますが、日本の国際化が真の意味で実現するということが、我々が外国人に時間や道順を何のためらいもなく聞く時が来るということになります。しかし、外国人の数が非常に多くなったと思われる最近でも、中々、時間や道順を彼らに聞いてみようという気にはならないというのが現実ではないでしょうか。従って、日本の国際化の程度が諸外国なみになるには、まだまだ相当の時間が掛かると見るべきでしょう。

さて、世の中全体のテンポはそれとして、当学会の国際化は急テンポで進んでいます。英文論文誌が発行されるようになって17年、日本で開催される当学会主催の国際会議の数も年々増加しています。春季、秋季大会も昨年度より英文のCALL FOR PAPERを作成、海外配布を開始しました。また海外在住者の学会活動参加に対して、積極的に支援すべく、対応策を真剣に議論しており、近々具体化されると思います。

こういう中、当学会で“外国人に時間や道順を聞く”ということは、外国人会員の数も著しく多くなり、本会役員にも外国人が登場して本欄に雑感を寄稿するようになることではないでしょうか。

そんな時代を夢見て本稿を終わりと致します。